

「登場人物」

沢村 青葉（10）（17）主人公の高校生

百野 未来（10）（17）（22）青葉の幼馴染

沢村 みどり（42）青葉の母

沢村 剛（44）青葉の父

岡田 修（35）青葉の主治医

寺谷 響子（30）女優

高田 勉（40）響子のマネージャー

武井 優太（10）サッカー少年

百野 留美（48）未来の母

マユ（17）未来の親友

直斗（17）未来の彼氏

生徒①

生徒②

生徒③

先生（小学校）

受付 スタッフ	看護師	少年 ③	少年 ②	少年 ①
------------	-----	---------	---------	---------

○結婚式場・外観――

青空の下。

鐘の音。

結婚式場の周りには青葉が茂っている。

○結婚式場・外へと続く階段

ウェディングドレス姿で笑顔の百野未来

(22)がフラワーシャワーを浴びている。隣

にいる結婚相手の顔は見えない。参列者に

は岡田修、沢村みどり、沢村剛、寺谷響子、

高田、武井優太、未来の母の姿も。

未来の声「青葉。青葉は私に“幸せになれ”って

言ってくれたよね。でも本当は“幸せにする”

って言ってほしかったんだ……」

○転院前の病院・診察室（夜）

T・5年前

窓の外は本格的な雨が降っている。

医師から話を聞いている沢村みどり

(42)と沢村剛(44)。

みどり、泣き崩れて。

みどり「なんで……なんで」

剛、齒を食いしばる。

剛「……」

○吉井病院・外観

晴天。

病院の周りには青葉が茂っている。

総合病院の正面。

○同・病室

沢村青葉（「」）、友人からの寄書きや千羽

鶴など手当たり次第床に投げつけ、みどり、

床の物を拾いながら笑顔で、

みどり「あらまあこんなに散らかして。個室だか

らってやりすぎよ。世話が焼けるわね」

青葉「うるさい！ 帰ってよ！」

青葉、布団に潜る。

みどり「嫌よ。今日から私もここに泊まるんだか

ら」

青葉、布団に潜ったまま。

青葉「僕がもうすぐ死ぬから？」

みどり「死なないわよバカ。あんたはバカなんだから死なないわよ」

青葉、布団に潜ったまま。

青葉「嘘つき」

みどり、泣きそうな表情で無理やり明るく。

みどり「そんな落ち込まないの。バカを受け入れることも大事よ。そうだ、運動したら喉乾いたでしょう？何か買って来るわね」

みどり、バッグから財布だけ持って出る。

○同・廊下

病室から出て来たみどり、壁に寄りかかって涙を堪える。

岡田修(35)が通りかかる。

みどり、岡田と目が合い気まずそうに会釈だけして早歩きで去る。

岡田、みどりの後ろ姿を見て小さくため息。

○同・病室

窓から外を眺める青葉。

岡田が首からカメラをぶら下げ勢い良く

入ってきて。

岡田「沢村青葉！俺は担当の岡田だ。これからよろしくな」

青葉「……」

岡田「あれ？さっきまでの元気はどうした？」

青葉「先生、僕は後どれくらいで死ぬんですか？」

岡田「何？お前もうすぐ死ぬの？」

青葉「……」

岡田「なんだよ暗いな、葬式じゃないんだから。

あ、ごめんごめん。とりあえず来いよ」

青葉「え？」

岡田「え？歩けるだろ？」

青葉「あ、はい」

青葉、慌ててベッドから降り、病室を出ていく岡田を追って出ていく。

○同・デイルーム

患者の憩いのスペース、デイルーム。
イスとテーブル、自動販売機、テレビ。
壁には患者や景色の写真がたくさん飾られて
いるが、どれもピントが合っていない。
数人の患者がそれぞれ過ごしている。
青葉と岡田、写真を見ている。

岡田「どうだ？」

青葉「え、何がですか？」

岡田「写真だよ写真。良い写真だと思わないか？」

青葉「はあ」

岡田「だろ？　こんなに良い写真を一体誰が撮っているのか気になるよな、実は俺なんだよ」

青葉「はあ」

岡田「はあ、つて。お前さあもうちよつとリアクションしろよ傷つくじゃねえか」

青葉「あ、すみません良い写真ですね」

岡田「もういいよ。今日からお前も写真を撮れ」

青葉「え、なんで？」

岡田「どうせ暇だろ？　俺のカメラ貸してやるから。良かったな新しい趣味ができて」

青葉「でも……」

岡田「まあ俺ほど上手くは撮れないだろうけどな」

岡田、首から提げたカメラを青葉に渡す。

○街中（夕方）

みどり、買い物袋を持って歩いている。

賑やかな声に振り向くと、茶髪でメイクを

しスカートも短く派手な百野未来（未来）が

友達と騒いでいる。

みどり「あ！ 未来ちゃん！」

未来「……おばさん？」

○カフェ（夕方）

みどりと未来が向かい合って座っている。

未来「超久しぶりだね、青葉は元気？」

みどり「ん、青葉はね」

店員がコーヒーと大きなパフェを持って

くる。

店員「お待ちせしましたホットコーヒーとスペシ

ヤルパフェです」

みどり「わぁすごいわね」

未来「このパフェ一回食べてみたかったの。インスタで見て」

みどり「インスタ？」

未来「これ」

未来、スマホの画面を見せる。

みどり「へえ、オシャレだね」

未来「でもJKには高くて。おばさんマジ神」

未来、嬉しそうにパフェの写真を撮る。

みどり、コーヒーを飲み笑顔で。

みどり「未来ちゃんもう女子高生か」

未来「ガッカリした？　こんなで」

みどり「こんなって？」

未来「だからこんな：：チャラチャラして」

みどり「なんでガッカリするの？　メイクも上手

だし、こんなにスタイルも良くてイマドキって

感じ？　元気でキラキラしてて羨ましいよ」

未来「キラキラ？　おばさんってホント天然だよ

ね。うちのママなんて私を見て毎日ため息ついてるよ」

みどり「あらそう？ 未来ちゃんといると私も若
くなった気がしてウキウキしちゃうわ。私も頼
もうかしらパフェ。すみませーん、このパフェ
もう1つ」

未来とみどり、笑い合う。

○カフェ・店の前（夕方）

未来とみどりが店から出てきて。

未来「ごちそうさまでした」

みどり「こちらこそありがとう。久しぶりに会え
て嬉しかったわ」

未来「私も。青葉にもよろしくね」

みどり「うん：：未来ちゃん、良かったら一度
青葉に会いに来てあげて。ここににいるから」

みどり、病院の場所を書いたメモを未
来に渡す。

未来「吉井病院？ 青葉、どこか悪いの？」

みどり「そうなのよ、もう参っちゃうわよ。でも
未来ちゃんのお陰で元気百倍！ ありがとね。
パフェの写真、青葉にも見せなきゃ」

未来「おばさん、大丈夫？」

みどり、ガッツポーズをして。

みどり「大丈夫大丈夫！　じゃあね」

未来「うん、またね」

笑顔で手を振るみどり。

複雑な表情で手を振る未来。

○未来の高校・屋上

未来、みどりから受け取ったメモを見ている。

壁の向こうから男女の声がする。

女「ダメだって」

男「いいじゃん別に」

女「未来に悪いよ」

未来、声のする方に近づく。

男「バレないって」

女「でも……」

男「未来とはもう別れるから」

女「マジで？」

男「マジで」

女「私の方が好き？」

男「うん、好き」

未来、声のする方を覗く。

声の主、未来の親友・マユ（17）と未来の

彼氏・直斗（17）がキスしている。

未来「直斗？ マユ！？」

マユと直斗、振り向いて。

マユ「未来！」

直斗「違うんだ未来、これはその……俺、こいつ

に未来のこと相談してて」

未来「相談？ それでなんでキスしてんの？」

マユ「直斗が未来とはもう別れるって。私の方が

好きだって」

未来「最低」

未来、走り去る。

○道

未来、険しい顔で自転車を漕いでいる。

○未来のアパート・外観（夜）

古めかしい雰囲気 の 3 階建てアパート。

○ 同 ・ 駐 輪 場（夜）

百野留美（48）、自転車に荷物を乗せて帰ってくるが未来の自転車が乱雑で留めることができず苦戦する。

○ 同 ・ 未 来 の 部 屋（夜）

未来、スマホの画面を見る。
直斗やマユとの写真を消し始める。

○ 同 ・ リ ビ ン グ（夜）

留美が荷物を抱えて入ってくる。
取り込んだ洗濯物や食べた後の食器などが散らかっている。

留 美 「（ため息）」

○ 同 ・ 未 来 の 部 屋（夜）

ノックの音がして留美が入ってくる。
留美「ちょっと未来、早く帰ってるなら洗濯物

たたむとか食器洗うとかしてくれたっていいじゃないママ疲れて帰ってくるんだから」

未来「私も疲れて帰って来たの」

留美「少しは協力してって言ってるの。二人つきりなんだから」

未来「勝手に離婚したんでしょ、うるさいなあ」

留美「ママに向かってうるさいとは何よ」

未来「いいからもう出てって」

留美「あ、あと自転車の置き方。何度も同じこと

言わせないで」

留美、出ていく。

未来、ベットに倒れ込み。

未来「ほんとみんな最低」

未来、スマホを開くと、パフエの写真。

未来「……青葉」

○吉井病院・受付

未来が来て受付スタッフに。

未来「すいません、ここに入院している沢村青

葉という人に会いたいんですけど」

受付スタッフ「少々お待ちください」

受付スタッフ、調べて。

受付スタッフ「奥のエレベーターで最上階へお上

がりください」

未来「ありがとうございます」

○同・エレベーター

未来、最上階のボタンを押し、案内を見る。

未来「緩和ケア病棟……？」

○同・デイルーム

青葉、首からカメラを下げて座っている。

青葉「撮ってみろって言われても何を撮ればいい

んだよ」

青葉、カメラを眺める。

（回想スタート）

○小学校のグラウンド

運動会が開催されている。

名前のゼッケンを付けた青葉（10）が全力

で走っている。

みどりと剛が大声で応援し、剛はカメラで

青葉の写真を撮りまくる。

○同・観覧エリア

青葉、みどり、剛が、唐揚げや卵焼き、

ポテトサラダ、おにぎりなどの手作り

弁当を囲んでいる。

3人、顔を見合わせ笑顔。

3人「いただきます！」

青葉、おにぎりにかぶりつき笑顔。

○同・木陰

未来（トコ）、青葉たちを遠目に一人コンビ

ニの5個入りロールパンの袋から一つ取

り出してかじる。

他のクラスメイトやその親が未来をチ

ラチラ見たり、見てみぬふり。

未来、食べるのをやめて俯く。

気づくと目の前に青葉がいて。

青葉「未来、こっち来て」

未来「？」

未来、首をかしげる。

○同・観覧エリア

みどりと剛、青葉の隣に未来が座っている。

未来、お弁当を見て。

未来「すごい！豪華だね！」

未来、自分のパンの袋を後ろに隠す。

青葉「未来、そのパン一個ちょうだい」

未来「え？」

青葉「お願い！」

未来、いそいそと青葉にパンを渡す。

青葉、パンを割り、お弁当のポテトサラ

ダを挟んで頬張る。

青葉「うま！」

みどり「いいな！未来ちゃん、おばさんもパ

ン一つもらっていい？」

未来「いいよ」

みどり、パンを受け取り唐揚げを挟んで頬

張る。

みどり「美味しい！」

未来、笑顔になる。

剛、写真を撮りながら。

剛「未来ちゃんも何でも好きなの食べてね。たく

さんあるから」

未来「うん！」

それぞれに食べ、笑い合う。

未来（17）の声「青葉はいつも私を笑顔にしてくれるヒーローだったよ」

青葉（17）の声「僕は未来の笑顔が大好きで、毎

日未来を笑顔にしたかったんだ……」

（回想終わり）

○吉井病院・デイルーム

青葉、カメラから視線を外し周りを見渡す。

奥の席に、帽子にサングラスにマスク姿の

寺谷響子（30）を見つけて二度見する。

響子、何かに取り憑かれたように雑誌の一

部分をペンで必死に塗り潰し始める。

青葉、啞然と響子を見る。

武井優太（10）が紙とペンを片手に松葉杖をついて響子に近づく。

優太「響子ちゃん、一緒にお絵描きする？」

響子、手を止め優太を見て。

響子「あら私のファンかしら？ ごめんなさい僕。

今はプライベートだからサインはしてあげられないの」

優太「サイン？ ……そっか、じゃあ握手！」

響子、恐る恐る手を出すと優太が笑顔で強引に握手する。

響子、慌てて挙動不審に雑誌をゴミ箱に投げ捨て立ち去る。

青葉、啞然と見ている。

優太、落ち着いた様子で手を振って。

優太「響子ちゃんまたね！」

優太、青葉の横に座り話し出す。

優太「病気なんだ、響子ちゃんは」

青葉「え？」

優太「色々忘れちゃう病気なんだ。だから優しく

してあげないといけないの。お兄ちゃんも病
気？」

青葉「あ、うん」

優太「名前は？ 僕は優太」

青葉「沢村青葉です。よろしくね優太くん」

優太「ねえ青葉くん、中庭に行こうよ」

青葉「中庭？」

優太、青葉の持っているカメラを指差して。

優太「写真撮るんでしょう？ 案内してあげる！」

優太、満面の笑顔。

○同・中庭

子供が遊ぶ遊具。ガーデニングなど。

小さい子供たちがサッカーをして遊んで

いる。

青葉と優太、ベンチに座る。

通りかかった未来、青葉を見つけ隠れる。

優太「僕はサッカーの試合で怪我しちゃって。

チームのエースだったけど、もう治らないかも

知らない」

青葉「そうなの？」

優太「でもいいんだ。これで僕の代わりに仲間がエースになれる。讓ってあげるんだ」

青葉「優しいんだね」

子供たち、遊具で遊び始める。

青葉と優太、子供達を眺めている。

未来も影から子供たちを見つめる。

（回想スタート）

○小学校・教室（朝）

ガヤガヤしている教室に先生が入って

来て、生徒たちが席に着く。

青葉も席に着き、空いている席を見る。

先生「おはようございます」

生徒たち「おはようございます！」

先生「今日は百野さんが体調不良でお休み。他

はみんないるわね」

生徒たち、ヒソヒソ声で。

生徒①「また休みだって」

生徒②「仮病じゃない？」

生徒③「ずるーい」

先生「静かに。授業を始めますよ」

青葉「……」

青葉、悔しそうな顔。

○同・体育館（朝）

生徒たち、体操服にジャージの上着を着て寒そうに集合している。

未来も同じ格好で端のベンチに座っている。

先生が来て。

先生「準備運動始めるから上着は脱いでね」

生徒たち、半袖になって上着をベンチに置きながら。

生徒①「先生、百野さんは上着を着たままでいいんですか？」

先生「見学の人はいいの。じゃあ始めます」

生徒②「いいなあ見学は」

生徒③「いっつも特別扱いだもんね」

未来、黙って俯いている。

青葉が来て。

青葉「未来は身体が弱いんだから仕方ないだろ！」

未来、顔を上げる。

生徒②「そうだけど……」

生徒③「冗談だよ青くん、そんなに怒らないで」

青葉「イジワルはダメだよ」

生徒①「青くんごめん！ イジワルしたつもり

じゃないの」

青葉「わかった。じゃあもう言わないでね」

生徒①「うん！ さ、行こう！」

生徒①、青葉の手をとって行こうとする。

青葉、歩きながら未来の方を振り向き。

青葉「未来は応援しててね！ 僕ががんばるから！」

未来、少し笑顔になる。

生徒①、青葉を引っ張って行く。

○ 同・下駄箱

未来、ランドセルを背負って靴を履き

替えている。

生徒①、②、③が来て未来を囲み。

生徒②「未来ちゃんは青くんと付き合ってるの？」

生徒③「運動会の時も一緒にお弁当食べてたよね」

未来「付き合っていないよ」

生徒①「なんだ。じゃあ青くんと仲良くしないで」

未来「なんで？」

生徒①「私が青くんのこと好きだから。邪魔しな

いでよね」

未来「そんなことしないよ」

そこへ青葉が来て。

青葉「未来！一緒に帰ろう！」

生徒①、②、③、無言で未来を見る。

未来「あ、私、忘れ物……」

未来、再び靴を履き替えて走り去る。

青葉「じゃあここで待……」

生徒①、青葉の声をさえぎって。

生徒①「青くん私たちと一緒に帰ろうよ」

生徒②「未来ちゃん行っちゃったし」

生徒③「そうだよ！帰ろう！」

青葉、強引に連れていかれる。

○同・校門

生徒①、②、③、青葉が一緒に帰っている。

青葉、立ち止まって。

青葉「そうだ、ちょっと待ってて！」

青葉、下駄箱の方に走り出す。

生徒①「青くん！」

青葉「すぐだから待ってて！」

青葉、走っていく。

○同・下駄箱

未来、トボトボ歩いて来る。

靴を履き換えようと下駄箱を開く。

靴の上に手紙を見つけて手に取る。

手紙には「こうえんでまってるね！あおば」

○公園（夕方）

大型遊具がある公園。

未来が来ると、遊具の影から青葉が顔

を見せて。

青葉「未来、こっち」

未来が青葉のいる遊具のところへ。

遊具の中に二人並んで座る。

青葉「秘密基地みたいでしょ」

未来「うん」

青葉「未来、一人で大丈夫？」

未来「……うん」

青葉「大丈夫じゃない時はここで会おう」

未来「わかった」

未来、青葉からの手紙を遊具の隙間に

置いて。

未来「こうして手紙の交換もできるね」

青葉「うん！」

青葉のお腹がグーウと鳴る。

青葉「次はお菓子も持ってこよう」

未来「そうだね」

未来、笑う。

青葉、それを見て笑う。

（回想終わり）

○吉井病院・病室

青葉、ベッドに備え付けのテーブルで
「未来へ」と手紙を書いている。

部屋の隅には箱が置いていて、バラバラに
なった千羽鶴が無造作に入れられている。

みどりが大きな買い物袋を抱え、勢い
よく笑顔で入ってきて。

みどり「ああ重い！ 疲れた疲れた！」

青葉、慌てて手紙を隠す。

みどり、それに気づかず荷物をソファーに

置き冷蔵庫からコーラを出してグイグイ

飲む。

青葉「それ僕のコーラ」

みどり「いいのいいの、青葉は今日から野菜ジュ

ースだから」

みどり、買い物袋から野菜ジュースや水、
プリンなどを出す。

青葉「マジか」

みどり「マジだよ。それからこれと……」

みどり、買い物袋から裁縫道具を出し、千
羽鶴の入った箱をテーブルに運ぶ。青葉、

ベッドから出てみどりの向かい側に座る。

青葉「僕も手伝うよ」

みどり「あらそう」

青葉、箱からバラバラになった千羽鶴を出

しながら。

青葉「ごめんね」

みどり「何が」

青葉「色々」

みどり「何言ってるの。体調は？平気なの？」

青葉「うん。大丈夫」

みどり「そうだ、プリン食べようよ。休憩休憩」

青葉「さっきコーラ飲んだところじゃん」

みどり、気にせずプリンを手に取り。

みどり「そういえばこの前未来ちゃんに会ったよ」

青葉「え？」

みどり「ほんとに可愛くて脚なんてモデルさんみ

たいにスラっと長くて。あれはモテるわね」

青葉「僕のこと話したの？」

みどり「ん？うん、軽くな。ここにいますから

暇だったら会いに来てやってって」

青葉「そっか」

みどり「そうそうそれでね！これ見て」

みどり、得意げにスマホの画面を見せる。

そこには未来と食べたパフェ。

青葉「何これ？」

みどり「未来ちゃんと食べたパフェ」

青葉「それだけ？」

みどり「あ、未来ちゃんの写真はないわよ？」

青葉「別にそういう訳じゃないけど」

青葉、プリンを開けながら。

青葉「で、僕にはコンビニのプリン？」

みどり「そのうち連れてってあげてもいいけ

ど女の子ばかりだったよ」

二人、プリンを食べながら。

青葉「母さんは女の子じゃないからね」

みどり「母さんだって女の子よ失礼ね」

青葉、呆れた顔。

みどり、嬉しそう。

○ファーストフード店・外観（夜）

所々に学生やサラリーマンがいるが空
いている店内。

端の席に未来が座っている。

○ファーストフード店・店内（夜）

未来、手紙を書いている。

テーブルにはコーラ。

未来の声「青葉。久しぶりに青葉を見た時は正直

ちよつと戸惑っちゃった。私の笑顔のヒーロー

はどこ行っちゃったの？ また、一緒に笑える

日はくるよね？ ……」

○吉井病院・病室（夜）

青葉、野菜ジュースを飲みながら未来

への手紙を書いている。

青葉の声「未来。今の僕を見たらガツカリする

んじゃないかな。あんなに得意だった笑顔

の作り方がわからなくなったんだ。未来は

今、笑えますか？ ……」

○同・デイルーム（朝）

青葉、岡田から借りたカメラを首から提げて座っている。

テレビを見ている患者、面会に来た人と話している患者など数人。

奥の席に帽子とサングラス、マスク姿の響子と、隣にスーツ姿のマネージャー・高田（40）が座り手帳を開いている。

高田、ため息をついて。

高田「響子の気持ちもわかるけど……」

響子、高田に背を向け。

響子「嘘。私の気持ちなんて全然わかってない」

高田、響子を自分の方へ向き直させ、両手を握る。

青葉、カメラを構え二人を撮る。

高田「不安なことがあれば隠さずに言ってくれ。

これまでだってそうやって一緒に乗り越えて来たじゃないか」

響子、握られた手を左右に揺らしてだだをこねるように。

青葉、カメラから目を離し、呆れたように首をかしげる。

響子「そうだけども……」

響子と高田、繋いだ手を揺らし続け。

高田「そうだけど何い。僕は響子の一番の理解者
だろぉ」

青葉、首をかしげながら立ち去る。

○未来のアパート・未来の部屋（朝）

未来、メイクをして制服のスカートの丈を短くし、鞆とスマホを持って部屋を出る。

○未来のアパート・リビング（朝）

留美、一人で朝食を食べている。

未来が来て、一度素通りするが立ち止まり振り返って。

未来「ママ、緩和ケアって何？」

留美、箸を止め。

留美「は？ なに急に」

未来「いいから。緩和ケアって何か知ってる？」

留美「緩和ケア？ あれじゃない？ 癌とかでもう
助からない人が治療をやめて痛みを取ってい
きましようねってやつ」

未来「え……」

未来、立ち尽くす。

留美、怪訝そうに。

留美「どうしたの？ 誰か病氣なの？」

未来、放心状態で無言で出ていく。

留美「ちょっと、何なのよ……」

留美、時計を見て慌てて朝食を片付ける。

○吉井病院・デイルーム

首からカメラをぶら下げた青葉、自動販売

機でコーラを買い座って飲み始める。

いつの間にか背後に響子がいて。

響子「飲み物を飲むならカメラ置いたら？ 濡れ

たら大変よ」

青葉、驚いてコーラをこぼしそうになる。

響子「ほら」

響子、青葉の隣に座りバッグからペンと雑

誌を取り出すと雑誌を開き、ペンで一点を執拗に塗りつぶし始める。

青葉、響子を見ながらカメラを首から外し横に置く。

青葉「それ、この前もやってたけど何してるんですか？」

響子、動きを止めず。

響子「ストレス解放措置」

青葉「え？」

響子、手を止めて青葉を見て威圧的に。

響子「ストレスを解放してるのよ文句ある？」

青葉「いいえありません」

響子、ストレス解放措置を再開。

青葉、恐る恐るカメラを持ち響子を撮ろうとする。

響子、見えないが鬼の形相で。

響子「今はプライバシーだから撮影はごめんなさい」

青葉、慌ててカメラを置く。

青葉「響子さんは女優さんですか？」

響子、ペンを置き髪をなびかせて。

響子「ええ、まあ」

青葉「や、やっぱり？ オーラがありますよね！」

響子、サングラスとマスクを外して。

響子「そうかしら？」

青葉、真剣に響子の顔を覗き込んで。

青葉「え、普通にめっちゃ可愛いんですけど。何

歳ですか？」

響子、驚いて顔を赤らめ慌ててサングラス

とマスクをする。

響子「大人をからかわないで、もう三十路よ」

青葉「なんで隠すんですか？ 芸能人だから？」

響子、蚊の鳴くような声で。

響子「……×××るの」

青葉、聞こえず。

青葉「え？」

響子、青葉に耳打ちして。

響子「だから、整形してるの」

青葉「マジで！？」

響子、少し怒って。

響子「そんなに驚くこと？ みんなしてるわよ」

青葉「そうじゃなくて。どこをですか？ 自然すぎてわからない。すごいなこの病院」

響子、ゆつくりとサングラスとマスク、帽子を取り青葉をまっすぐに見て。

響子「目と、鼻と、唇と、顎と、頬骨と……」

青葉「ほぼ全制覇ですね」

響子「そうなの。変じゃない？」

青葉「全然」

響子、花が咲いたように明るい表情で。

響子「本当？ 高っちもそう言ってくれるんだけど身内だし素直に喜べなくて。あ、高っちは私のマネージャーね」

青葉「彼氏じゃないんですか？」

響子、慌てて人差し指を口に当て。

響子「シート」

青葉「あ、秘密で」

響子、モジモジとぶりっ子して。

響子「高っちはあ、私が「∞」でデビューした時からずっと支えてくれててえ」

青葉「すごいですね」

響子、ふと悲しそうな表情をして。

響子「でも最近、仕事もなくて周りの若い子たち
がどんどん売れて」

青葉「世代交代ですね」

響子「そんなサラツと言わないでよ子供のくせに」

青葉「すみません」

響子、ため息をついて。

響子「自分でもわかってるの。引き際かなって。
でもさ、こんなに整形して頑張ってるんだから
このまま終わりたいじゃない。最後に全力
で良い仕事して、幸せな女優人生だったって
いう記憶にして終わりたいのよ」

青葉「幸せな人生……」

響子のスマホが鳴る。

スマホ画面に「着いたよ」のメッセージ。

響子「あ、高っちの車到着」

響子、雑誌とペンを片付け始める。

青葉「それ、何を塗りつぶしてるんですか？」

響子「あ、これ？」

響子、手に持った雑誌を開いて青葉に見せてお茶目に。

響子「売れてる若い子の顔をね、消えろ消えろって唱えながら塗り潰すと落ち着くの」

雑誌には顔が真っ黒に塗りつぶされたアイドルの写真。

青葉、顔が引きつる。

響子、片付けながらふと顔をあげて。

響子「えっと、あなたは……」

青葉「沢村青葉です。緩和ケア病棟にいます」

響子「……そう。あなたも大変なのね」

青葉「いえ、来たばかりで慣れなくて」

響子「じゃあまた話しましょう。今日は楽しかった。じゃあね」

響子、帽子やマスク、サングラスもバッグに入れて髪をなびかせ立ち去る。

青葉「変わった人」

青葉、響子を見送りながらコーラを飲む。

○未来のアパート・未来の部屋

未来、手紙をバッグに入れる。

○同・デイルーム

未来、キヨロキヨロしながら歩いている。

未来、青葉を見つけ柱の影に隠れる。

青葉と、変装をしていない響子が二人で古

いファッション誌「Popcorn」を見ている。

表紙には「2009年6月号」と記載されて

いて、表紙モデルは響子。

青葉「超カワイイじゃないですか！」

響子、得意げに。

響子「でしょ？ 初めて表紙を飾った号なの。嬉

しかったなー」

表紙の響子の弾けるような笑顔。

× × ×

高田「響子！ 次号の表紙が決まったぞ！」

響子と高田、抱き合って喜ぶ。

×
×
×

スタジオで表紙撮影をしている響子。

端の方で涙目で見守っている高田。

×
×
×

響子と高田、書店で響子が表紙のファッ

ション雑誌を手には笑合う。

×
×
×

青葉、雑誌をめくっていると、ウェディン

グドレス姿の響子の写真。

響子、覗き込んで。

響子「6月号だからウェディングドレスも着たな

あ。だから婚期逃しちゃったのかも」

響子、落胆。

青葉、少し考えこみ、突然雑誌を閉じて。

青葉「響子さん、僕と結婚式を挙げてもらえませ

んか？」

響子、驚いて。

響子「はあ！？」

どこからともなく高田が小走りで来て。

高田「はあ！？」

未来、ふくれっ面でバッグから手紙を出し
ビリビリに破り捨て回れ右して立ち去る。

○青葉の家・リビング（夜）

剛、ビールを飲みながら青葉の幼い頃のアルバムを眺めている。

アルバムには、小学生時代の青葉の運動会の写真や家族で撮った笑顔の写真。

みどりがタオルや着替えを持って来て。

みどり「あら、あんまり飲みすぎないでよ」

剛、アルバムに目をやったまま無言。

それを見てみどり、小さくため息。

みどり、剛のそばで荷造りをしながら。

みどり「あなたもたまには会いに行ってあげてよ」

剛「ああ。仕事が落ち着いたらな」

みどり、手を止めて。

みどり「仕事はいつ落ち着くの？ 青葉にはもう

時間がないのよ」

剛「わかってるよ。わかってる。でもどんな顔して会えばいいんだ？ どんな言葉をかけてやったらいい？」

みどり「何だっていいのよ。あなたは青葉の父親なんだから」

剛「……なんでこんなことになったんだ」

みどり、無言で荷造りを続ける。

剛、ビールを飲みほす。

○ 吉井病院・最上階テラス

20名程度の小規模のパーティーができ

る広さのテラス。

手入れの行き届いたガーデンニング。

白の椅子とテーブル。

青葉が花の写真を撮っている。

岡田が飲み物を二つ持って来て。

岡田「お、撮ってるねー」

青葉、振り向いて。

青葉「岡田先生、ここって貸切にできますか？」

岡田「へ？」

青葉「ここで結婚式をしたいんです」

岡田「は？」

岡田、キョトンとした顔。

○同・病室

青葉とみどりがテーブルでノートパソコンに向かって頭を寄せて相談している。

画面には青葉が撮った最上階テラスの写

真が映っている。

青葉の手前に野菜ジュース。

みどりの手前にコーラ。

青葉「真ん中をバージンロードにして、両側にイスを並べるんだ」

青葉、コーラに手を伸ばす。

その手をみどりが叩く。

二人ともパソコンから目は離さない。

みどり「テーブルはいらないのね？ イスもお花

で飾ろうか！」

青葉、叩かれた手をさすりながら。

青葉「うん、そうだね」

みどり「なんだかワクワクしちゃうわあ。ブーケトスもするわよね？ 母さんに飛んできたらどうしましょ」

青葉「ダメだよ既婚者なんだから」

みどり「本当の結婚式じゃないんだからいいじゃない」

みどり、コーラを美味しそうに飲む。

青葉、無表情で野菜ジュースを飲む。

× × ×

○ 吉井病院・最上階テラス

青葉と岡田、並んで座って飲み物を飲んで
いる。

青葉、カメラを横に置いている。

岡田「お前が響子さんと高田さんのキューピツ
ド？」

青葉「はい。響子さんはあんなに綺麗なのに何度も整形して雑誌の顔を塗りつぶして……。もつと自信を持ってほしいです。好きな人からポーズされたら何か変わるかなって」

岡田「なるほどなあ」

青葉「僕はきつと、この先学校を卒業して社会人になって仕事をしたり夢を追いかけたり、好きな人と結婚してっていう、当たり前のように流れていく時間を過ごすことができない」

岡田「……」

青葉「人ってそうやって何年もかけて成長していく姿を産んで育ててくれた親に見せることで恩返ししていくと思うんですね。僕にはそんな時間はないから、全部は無理だけど今ここで幸せな結婚式を見せることで少しでも喜んでもらえたら、嬉しいな。嘘でも」

岡田「青葉……」

青葉「ま、結局僕が花婿じゃなくなる予定だけど」

岡田「それな！」

青葉「とにかく今は何か響子さんと高田さんの力

になりたい。自分のことはそれから考えます」

岡田「そうだな、追いついて追いついて考えればいいさ時間は
いくらでもある」

青葉と岡田、静かに飲み物を飲む。

× × ×

みどり、手を叩いて。

みどり「そうだ！ 未来ちゃんも呼ぼうよ」

青葉、野菜ジュースを吹き出しそうになり。

青葉「なんで？」

みどり「たくさんいた方が賑やかでいいじゃない。

ダメ？」

青葉「別にダメじゃないけど」

みどり「あんたたちまだ会ってないんでしょう？

せっかく感動の再会ができるのに会わない時

間がもったいなと思うじゃない？」

みどり、青葉を覗き込む。

青葉、少し考えてから立ち上がってベッド

横の引き出しから手紙を取り出し戻り、み

どりに差し出して。

青葉「じゃあ未来に会ったらこれ渡して」

みどり、手紙を受け取ってにやける。

みどり「なんだぁカワイイことするじゃん」

みどり、封筒を入念にチェック。封筒には何も書いていないが頑丈に閉じられている。

青葉、みどりを見て。

青葉「絶対に開けないでよ」

みどり「もちろん」

みどり、嬉しそうにコーラを飲み干す。

青葉は笑っていない。

○吉井病院・最上階テラス

ガーデンウェディングのように花や風船などでセッティングされている。

○同・ダイルーム

ウェディングドレス姿の響子を、みどりや未来、優太が囲んでいる。

○ 同 ・ 病 室

酸素吸入器を付けベッドに横たわっている青葉。

深刻な顔の岡田。

そこへ高田が急いで入ってくる。

高田「大丈夫ですか？ よりによってこんな時に」

岡田「今は絶対安静が必要です」

青葉、ベッドから弱々しく片手を伸ばす。

その手を高田が握る。

高田「青葉くん心配ないからね」

青葉、弱々しい声で。

青葉「高田さん僕の代わりに花婿役をしてください」

い

真剣な表情の高田がキョトンとなる。

高田「ん？」

青葉「母さんに幸せな映像を見せてあげたいんで

す……時間がないから……僕の代わりに」

青葉の手から力が抜ける。

高田「青葉くん！」

岡田、無理やり青葉から高田を引き離し。

岡田「高田さん急いで！」

高田「え！？」

岡田「青葉の願いを叶えてあげてください！」

岡田、高田を引っ張って出ていく。

青葉、片目を開け出ていく二人を見届ける

と、酸素吸入器を外し元気に起き上がる。

首にはすでにカメラをぶら下げている。

青葉、ベッドから降りて靴を履き歩きかけ

るが胸を押さえうずくまる。

険しい表情の青葉。

○同・最上階テラス

みどりが響子を誘導してくる。

みどり「じゃあ響子さんはここでちょっと待って

てね」

響子「みんなは？」

みどり「うん、すぐ来るから」

みどり、全速力で走り去る。

○同・最上階の室内

テラスの様子が伺える室内。

響子がいる場所からは見えにくいところ

に未来、優太が隠れている。

みどりが滑り込んきて。

みどり「あー緊張した！」

未来「お帰りなさい」

優太「バッチリだね」

みどり「あとは高田さんが来るのを待つだけ」

岡田がきて。

岡田「お待たせ」

優太「高田さんは？」

岡田「ちょっと無理やりだったが大丈夫だ。あ

れ？青葉は？」

みどり「まだ来てないけど」

未来、なんとも言えない表情。

優太、テラスを指差して。

優太「高田さんがきた！」

優太たち身を小さくして隠れ見る。

○同・最上階テラス

響子の背後から白いタキシード姿の高田が歩いてくる。

響子、高田に気づいて笑顔で。

響子「高っちどうしたのその格好！」

高田「いやその、これは」

響子「みんなは？」

高田「みんなは今日はもう来ない」

響子「どういうこと？」

高田、響子と正面から向き合って。

高田「響子」

響子「え？なに？どうしたの？」

高田「今日は僕から響子に伝えたい事があるんだ」

響子と高田、見つめ合う。

高田「響子、僕と結婚してほしい」

響子の表情が曇り。

響子「……なんで？」

高田「響子とはこれまでも大切なパートナーとしてやってきた。そろそろいい時期なんじゃないかと思って」

響子「いい時期って？　もう女優は引退した方がいいってこと！？」

高田「そんなこと言ってないよ」

響子「言ってるじゃない！　もう仕事が取れないから？　私が病気だから？　もう女優は無理ってことなんでしょ！？」

高田「違う！　そうじゃないよ！」

高田、響子に触れようとするが響子が払いのける。

響子「わかってるわよ私だって！　どんなに整形して若作りしたって若い子には勝てない！　病院に通ったって治る病気じゃない！　全部わかってる！」

高田「響子頼む聞いてくれ」

響子、涙ぐんだ目で高田をにらみつけ。

響子「私は女優よ。自分の引き際くらい自分で決めるわ」

響子、立ち去る。

高田、肩を落とす。

○同・最上階の室内

岡田、みどり、未来、優太がいるところに

高田がやってきて頭をかき苦笑い。

高田「すみません、失敗しました」

未来「何て言っているのか」

優太「高っちフラれたの？」

みどり、慌てて。

みどり「優太くん」

高田、力なく笑って。

高田「うん、フラれたみたい」

岡田「申し訳ない、俺が無理やり……」

そこへ看護師が走ってきて。

看護師「岡田先生！青葉くんが！」

看護師を見る岡田の強張った表情。

○同・病室（夕方）

青葉、酸素呼吸器をつけて眠っている。

看護師、点滴を調節している。

みどり、青葉の手を握っている。

○同・病室前の廊下（夕方）

未来が立っている。

岡田が来て。

岡田「もう落ち着いたから入ってもいいよ」

未来「……」

未来、うつむいて手が小さく震えている。

岡田、未来の様子を見て。

岡田「大丈夫？」

未来「急に実感しちゃった……。わかってたつもりなのに」

看護師が出てきて会釈し立ち去る。

続いてみどりも出てきて。

みどり「あ、先生ありがとうございます」

岡田「ちよつと疲れたんでしょう。問題ないです

よすぐ良くなりますよ」

みどり、笑顔を見せて。

みどり「すみません。もうあの子ったら人騒がせ

なんだから」

みどり、未来に。

みどり「未来ちゃんもこんなところまで付き合わ

せちゃってごめんね。さ、中入って」

未来「いえ、今日は帰ります」

みどり、心配そうに。

みどり「そう？　また来てあげてすぐ元気になる

から……あ、そうだちょっと待って！」

みどり、一度病室に入り手紙を持ってすぐ
に出てくる。

みどり、手紙を未来に渡し。

みどり「はいこれ！」

未来、受け取って顔を上げ。

未来「おばさんこれ」

みどり、いたずらっぽく。

みどり「青葉から未来ちゃんにラブレター」

岡田「大人しい顔してやるなああいつ！」

みどり「そうなんですよ先生。青葉と未来ちゃん

は小さい頃からずっと仲良しなのよねえ」

未来、少し照れて。

未来「そんなじゃないよ。もうおばさん余計な

こと言わないで。じゃ、じゃあ私もう帰るから。

またね、あ、青葉によろしく」

未来、手紙を両手で握りしめ、つまづきながら帰っていく。

未来を見送りながらみどりと岡田、目を合わせて笑う。

みどり「本当に純粋で真っ直ぐで……心配」

岡田「大丈夫ですよ。あの二人ならきっと」

○公園（夜）

未来、誰もいない公園で遊具の中に一人。

両手で握りしめた手紙をそっと開く。

中身を開くと丁寧な文字が並んでいる。

未来の声「未来へ。母さんから久しぶりに未来の

ことを聞いてこの手紙を書いています」

青葉の声に変わって。

青葉の声「覚えてるかな？ 小学生の時はよく二人で公園で遊んだよね」

× × ×

○公園（夕方）

青葉（１０）と未来（１０）、遊具の中でそれぞれのランドセルを机がわりにして手紙を書きながら、お菓子を食べて笑い合っている。

× × ×

○公園

青葉（１０）、未来（１０）の背後から未来の肩をたたき、振り向いた未来の目の前に、葉に乗ったアオムシを見せる。

未来、驚いて叫ぶ。

青葉が逃げ、未来が追いかける。

二人とも笑顔。

× × ×

○公園

マスクをして部屋着の未来（１０）が一人で公園に来る。片手に手紙。

未来、遊具の中に入って手紙を置き、咳を

しながら帰る。

×
×
×

○公園

ランドセルを背負った青葉（１０）が一人で公園に来て遊具の中に入る。

未来（１０）からの手紙を読む青葉。

×
×
×

○公園（夕方）

未来（１０）、小さな箱を青葉（１０）に渡す。

青葉、箱を開けるとおもちゃのヘビが飛び

出し驚いて尻餅をつく。

未来、それを見て大笑い。

未来が逃げ、青葉が追いかける。

二人とも笑顔。

×
×
×

青葉の声「未来が急に引越したって聞いた時は寂しくて、届くはずのない手紙を書いたりもしました。未来、今もあの頃の笑顔でいてくれたら嬉しいです」

手紙を読む未来の目から涙が流れる。

未来「届くはずのない手紙……！？」

未来、ハツとして遊具の中を探すと、枯葉や土に埋もれた古い手紙がバラバラと落ちる。

未来「あった！」

未来、その手紙を一つ一つ丁寧に開くと、それぞれ子供の字で短い文章が書かれている。

青葉（10）の声「みくへ。げんき？どこにいてもあしたもいっぱいわらおう」

青葉（10）の声「みくへ。今日も笑ってるかな？会いたいな」

青葉（10）の声「みくへ。笑顔でいたら、またいつか会えるよね！」

未来、読みながら力なく笑う。

未来「やっと会えたね青葉……遅くなってごめん

ね……」

未来、手紙を全部抱きしめる。

○吉井病院・病室（夜）

青葉、目を覚ます。

みどり、イスで居眠り。

岡田が入ってきて小さな声で。

岡田「目が覚めたか？ 気分は？」

青葉「大丈夫です。作戦はどうになりましたか？」

岡田「ま、雨降って地固まるってとこかな」

青葉「え？ どういうこと？」

みどりが目を覚ます。

みどり「青葉！ 大丈夫？」

岡田「とにかく今日はゆっくり休んで。お母さん

も」

青葉「はい」

みどり「ありがとうございます」

岡田、部屋を出ていく。

○ 未来のアパート・キッチン（夜）

エプロン姿の未来がカレーを作っている。

留美がコンビニのお弁当が二つ入ったビ

ニール袋を持って帰ってくる。

留美、未来に驚いて。

留美「何？ どうしたの？」

未来、食器を用意しながら。

未来「たまにはね」

留美、コンビニのビニール袋ごと冷蔵庫に

押し込みながら。

留美「いい匂い！ 手洗ってくる！」

未来、留美のいる方向に向かって大声で。

未来「味は保証できないけど」

留美の声「大丈夫、まずかったらコンビニのお弁

当もあるから！」

未来、小さな声で。

未来「失礼ね」

未来、少し笑う。

○同・リビング（夜）

机にはカレーライスやサラダなど。

未来と留美が座っている。

留美「いただきます！」

留美、カレーライスを一口食べて。

留美「んゝ！ 美味しい！」

未来、元気のない様子で。

未来「よかった」

留美、食べながら。

留美「食べないの？ 本当に美味しいよ？」

未来「うん」

未来、思い詰めたように。

未来「ママ。私ね、小さい頃ママとパパが離婚し

て引っ越して、高校行っても夢となくて遊ん

でばかりで。全然楽しくなくて……そういうの

全部ママたちのせいにしてた」

留美、スプーンを置く。

未来「でも違った。自分が上手くいかないのを全

部人のせいにして逃げてたんだよね……今ま

でごめんなさい」

留美「どうしたの急に。何かあった？」

未来、うつむいて涙をこらえ。

未来「……青葉に会ったんだ。超久しぶりだった」

留美「青葉くん？ 小学校の時の？」

未来、うなづき、顔を上げると泣いている
ような笑っているような顔。

未来「緩和ケア病棟に入院してるの……せっかく
会えたのに……もう二度と会えなくなる……

青葉が、青葉が死んじゃう」

子供のように泣く未来。

留美、未来を包み込むようにして。

留美「未来」

留美、かける言葉が見つからない。

○同・未来の部屋（夜）

未来、手紙を書いている。

○吉井病院・病室（夜）

青葉、点滴をしながら眠っている。

○同・病室前の廊下

未来がドア越しに青葉を見ている。

髪が少し乱れやつれた様子のみどりが花

の入った花瓶を持ってきて。

みどり「未来ちゃん来てくれたの？ ごめんなさ

いね今ちょうど薬が効いて眠っているの」

未来「大丈夫ですか？」

みどり「痛みを和らげるお薬を入れてもらったん

だけど、それで昼間も眠いらしくって」

未来「そうなんだ」

みどり、元気のない笑顔を見せて。

みどり「だからおばさんも暇なのよね」

未来「おばさんも休める時に休んだ方がいいよ。

私にできることあったらいつでも言っ

みどり「ありがとう」

未来「あ、それとこれ」

未来、バッグから手紙を出して。

未来「青葉に渡してくれる？」

みどり、明るい表情で。

みどり「了解！」

未来「じゃあ行くね」

みどり「また来てあげて。青葉喜ぶから」

未来「うん」

未来とみどり、手を振って別れる。

○同・デイルーム

未来が通りかかると、優太と、サッカーのユニフォームを着た少年達4、5人に遭遇。

少年①がメッセージでいっぱいのサッカー

ボールを優太に渡している。

未来、微笑んで見守る。

優太、ボールを受け取るが曇った表情。

優太「わざわざいいのに。僕もうサッカーやめるから」

少年①「え？」

少年②「リハビリしたら治るんじゃないの？」

少年③「僕たちずっと待ってるから」

未来、心配そうに見ている。

優太、きつい口調で。

優太「うそだ！本当は僕がいなくなって喜んで

るんじゃないの？ 自分が次のエースになれる
かもしれないって思ってるんだろ！」

少年① 「なんだよそれ」

優太「いいから帰ってよ。もう来なくていいから」

未来、思わず駆け寄って。

未来「ちょっと優太くん！」

優太、そっぽを向いて黙っている。

少年① 「わかったよ……。みんな帰ろう」

少年達、トボトボ帰っていく。

そこに響子がきて一人別の席に座る。

優太、響子を見つけて未来から逃げるよう

に松葉杖で響子の方へ行く。

優太「響子ちゃん！ 今日は何して遊ぶ？」

響子は優太の足を見てよそよそしく。

響子「あら、怪我？」

優太、響子の態度を気にせず響子の隣に座
って話し始める。

優太「うん、サッカーで怪我したんだ」

未来、ため息をついて立ち去る。

○同・正面

未来が中から出てくると、高田と遭遇。

未来「あ、高田さん」

高田「未来ちゃん、青葉くんのお見舞い？」

未来「はい。でも眠っていたので出直します」

高田「そっか。響子見かけた？」

未来「あ、デイルームで優太くんと一緒にいました

たけどちょっと様子が……」

高田、何かを察したように笑顔で頷いて。

高田「ありがとう」

未来、行こうとして高田を振り返り。

未来「高田さんは響子さんと結婚しないんです

か？」

高田「まあ、響子次第かな。彼女は今、女優としてどうしたいのか、病気とどう付き合っているのか、模索しているところだと思うんだ。彼女の中でその答えが出た時、どんな答えでも僕が隣で支えていきたい。あのプロポーズをして改めてそう感じたよ。青葉くんの目が覚めたらお礼を言わなきゃね」

高田、笑顔で片手を上げ、病院に入っている。

未来「すごいなあ」

未来、高田の背中を見届ける。

○同・病室

青葉、ベッドから窓の外を眺めている。

ベッド備え付けの机には未来からの手紙。

酸素吸入器などは付けていない。

未来の声「久しぶりに見た青葉は相変わらずみんなに優しいヒーローだった。でも今は自分のことを一番に考えていいんだよ。今度は私が青葉を支えるから。また会いに来るね。青葉と一緒に笑顔になれたら嬉しいな」

○同・デイルーム（夜）

みどり、やつれた様子で一人座り、外の雨を見ながら缶コーヒーを飲んでいる。テーブルには缶コーヒーの他に買ってから時間が経ち水滴のついたコーラ。

他に誰もいない。

ひとつ深呼吸をして気合を入れコーヒーを飲み干し、コーラを持って歩き出す。

前から岡田が歩いてくる。

みどり、岡田と目が合うとコーラを見せて無理やり笑顔を作り。

みどり「あの子、野菜ジュースよりこっちの方が好きなんです。まだまだ子供で」

岡田、うなづいて微笑む。

○同・病室（夜）

青葉、冷蔵庫を開ける。

冷蔵庫の中にはコーラがたくと野菜

ジュースがひとつ。

野菜ジュースを取り出す青葉。

そこへ岡田が勢いよく入ってくる。

岡田「お、生きてるか？」

青葉、岡田を横目で見てソファーに座る。

岡田、向かい側に座りながら。

岡田「何だよ死にそうな顔しやがって」

青葉「先生冗談に聞こえませんか」

岡田、鼻で笑って。

岡田「ふん。最近デイルームにこないじゃないか」

青葉「見ればわかるでしょ。どんどん調子が悪くなってる。僕はもう……」

野菜ジュースはテーブルに置いたまま。

岡田「もう何だ？もう諦めるのか？」

青葉「ここに来た時から諦めていましたよ。緩和ケアってそういう所でしょ」

岡田「お前は何もわかってないんだな。ここはお前みたいな弱っちい奴が来る場所じゃねえよ」

青葉、冷静に。

青葉「……そうですね。響子さんも優太くんもここには来ない。みんなには未来があるから。でもここにいる僕に未来はない」

岡田「あるよ」

青葉、強く反発して。

青葉「どこにあるんですか？僕はもうすぐ死ぬ！まだ親に恩返しもできてない。これじゃ生まれてきた意味なんてないよ」

岡田「青葉。これが今お前が作った未来だよ」

青葉「え？」

岡田「ウジウジ部屋に閉じこもってもう死ぬだの生まれの意味がないだの泣き言ばかり言ってるお前が自分で作った未来が今だ」

青葉「……」

岡田「明日はもっと落ち込むか？ 明後日にはずっと近くで笑っていてくれる母さんに泣き顔でも見せるのか？ 甘えるな！」

青葉、齒を食いしばって泣く。

○同・病室の外（夜）

みどり、ドア越しに青葉と岡田の会話を聞きながら声を殺して泣いている。

○同・病室（夜）

岡田、立ち上がり冷蔵庫からコーラを取り出して。

岡田「終わればかり見て生きるのはもうやめろ。数時間後だって数分後だって掛け替えのない

お前の未来だよ。未来をどう作るかは自分次第」

岡田、青葉の野菜ジュースとコーラを取り替えて。

岡田「……コーラの方が好きなんだろう？ あんまり我慢するな」

岡田、青葉の頭をクシャクシャ撫で野菜ジュースを持って出ていく。

青葉、コーラを見て泣く。

○同・最上階テラス

青空が広がっている。

青葉が点滴をしながら清々しい表情で座っている。

そこへ未来がやってきて隣に座る。

並んで座って前を見ている。

お互いの方は向かず目も合わさない。

未来「結婚したい女がよくとる行動パターンってわかる？」

青葉「いきなり何？」

未来「私ね、ここで青葉と結婚式がしたい」

青葉、未来を見る。

青葉「未来、僕は……」

未来、青葉を見る。

至近距離で目が合う。

未来「やっと会えたね」

青葉「うん。やっと会えた」

お互いに視線を外し少し照れ笑い。

未来「結婚したい女はね、周りから固めるの」

青葉「周り？」

未来「だから青葉が弱ってる間にみどりさんと超

仲良しになって、響子さんと高田さんと優太く

んと岡田先生と友達になったの」

青葉「ヤバい」

未来「周りはまだ十分固めたからあとは青葉だけ。

もう逃げられない」

青葉「女って怖いな」

未来「ウジウジして部屋から出てこなかった青葉

が悪いんでしょ」

青葉「……嫌じゃないの？こんな弱い奴」

未来「昔の私みたい」

青葉「逆転されたな」

未来「あの頃、私は青葉がいてくれたから笑っていられたの」

青葉「未来に笑っていてほしくて、いろいろ頑張ってた気がする。懐かしいな」

未来「だから今度は私が青葉を笑顔にする」

青葉「僕は大丈夫だよ」

未来「はい出た。そういうところだよ青葉」

青葉「え？」

未来「青葉はいつも人のことはめっちゃ考え
るのに自分には全然優しくない」

青葉「そうかな」

未来「そうだよ」

未来、青葉の胸に手を当てて。

未来「この奥にいる青葉がかわいそう」

青葉「……」

未来、手を当てたまま。

かなり至近距離で目が合い、未来が慌てて
離れる。

青葉「ここにきた時さ、僕の人生はもう終わった、

ここはただ死ぬのを待つ場所だと思った。でも

岡田先生にカメラを渡されていろんな人に出

会って、母さんから未来の話を聞いて……」

未来「私の話を聞いて？」

青葉「もう一度会いたいと思ってしまった」

未来、青葉の前に立って。

未来「こんなに可愛くなったしね」

青葉「自分で言うな」

未来「青葉もいい感じじゃん」

青葉「いい感じって何だよ」

未来、座っている青葉を覗き込み。

未来「格好いいって言ってほしいの！？」

青葉「違うよ！」

未来「あ、ムキになっちゃってカワイイ」

未来、青葉をツンツンする。

青葉「からかうなって！」

未来、笑って逃げようとする。

青葉は笑っているが、追いかけてはこない。

未来、笑顔で青葉の横に戻る。

青葉「未来」

未来「ん？」

青葉「正直夜になるとさ、時々無性に泣きたくなるんだ……。本当は、怖くて怖くてたまらない」

未来、青葉と手を繋ぐ。

青葉「自分がこんなに弱いとは思わなかった」

未来「弱くて何がいけないの？泣いたっていいじゃん。誰だって怖いよ。だって生きてるんだから。青葉は格好つけすぎ」

青葉「なんか頼もしくなったね、未来」

未来「そう？もっと頼ってよ」

青葉「ありがとう」

青葉、ゆっくり優しく繋いでいた手を離し。

青葉「でもごめん。結婚式はできない」

未来「え？何で？」

青葉「何でって……未来。僕にはもうあんまり時間がないんだ」

未来「……知ってるよ？」

青葉「でも未来は違う。何年も何十年も先までずっと幸せでいてほしい」

未来「……」

青葉「未来にはもっと他に……」

未来「嫌だ！ 何言ってるの？ 青葉じゃなきゃ嫌だよ！」

青葉「未来、だったら余計に未来が辛くなるだけだよ。僕がいなくなったあと……」

未来「いなくなったあとなんてそうなってから考えるよ！ 今はいるでしょ！ 青葉は今ここにいるんだよ！」

未来、思わず青葉に抱きつく。

未来「大好き……大好きだよ青葉」

青葉、優しく受け止める。

青葉「……ごめん。ごめんね未来」

青葉、ゆっくり未来から離れる。

青葉「薬の時間だから戻るよ」

青葉、力なく歩いていく。

未来、泣いたまま動けない。

○同・デイルーム

青葉がイスに正座している。

みどり、響子、高田、優太、少年①、岡田

が陰しい表情で青葉を囲んで立っている。

みどり「本当に情けない。それでも私の息子なの？」

青葉「……はい」

響子、静かにキレて。

響子「てめえガキのくせに自惚れてんじゃねえぞ」

青葉「響子さんそんなキャラでしたっけ？」

高田「響子は女優だ。どんなキャラでもこなす」

青葉「はい、すみません」

優太「青葉くん見損なったよ」

少年①「男として最低だね」

青葉、少年①に。

青葉「君は誰？」

優太「僕の親友だけど何」

青葉「いえ、すみません」

岡田「お前さあ、自分が何しでかしたかわかってんの？」

青葉「先生はよく僕のところにいますけど暇なんですか？」

岡田、大声になって。

岡田「だからあ！今はあ！」

青葉「は、はい」

岡田、チンピラのように。

岡田「お前のことでえ！」

青葉「はい、すみません」

岡田「こうやってみんなわざわざ集まってるんだ

ろおがあ！」

青葉「すみません！」

岡田の罵声に通じかかった患者や看護師

が恐れおののく。

みどり「先生、ちょっとボリュウムが」

岡田「すみません取り乱しました」

響子「とにかく、あんたは未来ちゃんのことどう

思ってるの？」

青葉「どうって」

優太「好きなんでしょ？」

青葉「それはまあ」

高田「じゃあなんで結婚式はできないの？」

青葉「だって」

岡田、再び大声で。

岡田「だってじゃねえよ！」

通りかかった看護師が驚いて持っていた
ものを落とす。

みどり「先生、ポリウム」

響子「だって何？」

青葉「結婚式をした方が辛くないですか？」

優太「なんで！？」

青葉「僕にとってはいい思い出で終わるかもしれないけど、未来にとっては辛い思い出にならない？
いなくなる人と結婚式なんかして、この先、誰かと心から幸せな結婚ができますか？
僕は未来に、幸せになってほしいんです。思い出したら辛くなるような思い出を未来に残したくない……」

みどり「青葉……」

響子「私は、今しか一緒にいられない大好きな人に
応えてもらえない方がよっぽど辛いけどね」

高田、響子の肩を抱き。

高田「青葉くんが教えてくれたことだよ」

青葉「……」

優太「僕は楽しい思い出とか嬉しい思い出がいっぱいある方が頑張れると思う」

岡田「お！ いいこと言うじゃないか優太」

みどり「よく考えて、また未来ちゃんと話してみたら？」

響子「最近全然見ないけどね、未来ちゃん」

高田「よっぽど傷ついたんだろうね」

みどり「もう来てくれないのかしら」

優太「未来ちゃんかわいそう」

岡田「女を泣かせるなんてマジでクズだな」

少年①「謝った方がいいよ」

青葉、少年①に。

青葉「そうだけど君あんまり関係なくない？」

優太「俺の親友をいじめるな！」

響子「そうだそうだ」

高田「仲間外れは良くないね」

青葉「そんなんじゃない」

岡田「それじゃ腹も減ったしひとまず解散！」

正座をしている青葉を残して、それぞれ思い思いに散っていく。

みどりが青葉の横に残る。

青葉「母さん、今の僕って」

みどり、食い気味に。

みどり「マジでクズね」

青葉、肩を落とす。

○青葉の家・リビング（夜）

剛、ビールを飲み青葉の幼い頃のアルバムを眺めていたが手を止めて。

剛「お前、青葉にクズって言ったのか！？」

みどり、料理を持ってきて。

みどり「ついよ、つい」

みどりも晩酌に参加し、二人でアルバムを見る。

アルバムのの中では青葉（１０）と未来（１０）がくつついて全開の笑顔。

みどり「未来ちゃん、また来てくれるかしら」

剛、独り言のように。

剛「会いたいなら待ってないでこっちから会いに行けばいいんだよ……」

剛、ビールを一気に飲み干す。

○公園（夜）

未来、一人で遊具の中に座っている。

○吉井病院・部屋（朝）

岡田と向き合って、みどりと剛が座っている。

岡田「今の青葉くんの状態ですが……」

岡田、資料を見せ、説明を始める。

みどりと剛、冷静に聞いている。

○同・デイルーム（朝）

バッチリメイクで髪を巻き、ドレスアップし卓上ライトで自分を照らしている響子。

ユニフォームを着て松葉杖とサッカーボールを持っている優太。

他の患者もいてヒソヒソ話をしている。

青葉が現れ、自販機で水を買う。

優太、青葉に気づき。

優太「青葉くん！」

青葉、響子と優太のところに座り、周りを

見渡して。

青葉「おはよう。何かあったの？」

優太「フシンシャだって」

青葉「不審者？」

響子「朝から誰も知らない怪しい人がカメラを持ってウロウロしていたらしいのよ。私のファンかしら」

優太「僕が復活する噂を聞いたサッカー選手のカウトマンかも」

青葉「だから……二人ともそんな感じなんだ」

響子と優太、決めポーズ。

青葉、無言で水を飲み興味なさそうに去る。

○同・病室

看護師が青葉の血圧を測っている。

看護師「問題ないですね」

青葉「ありがとうございます」

看護師、部屋を出ようとする。

ドアから半分顔を出し凝視する剛の顔。

看護師「ヒっ……！」

青葉も見て。

青葉「……父さん！？」

○同・ケアルーム

卓上ライトを消す響子と、優太、みどりが座っている。

響子「全く人騒がせね」

みどり「すみません」

優太「青葉くんのお父さん初めてきたの？」

みどり「そうなのよ」

優太「青葉くん嬉しいだろうね！」

響子「優太、あんたは優しいね」

響子、優太の頭を撫で、優太とじゃれ合う。
みどり、それを微笑んで見ている。

○同・病室

リュックを背負い、首からカメラをぶら下げている剛が突っ立っている。

青葉「何でそんな大荷物なの？」

剛「あ、これか？　これは……」

剛、ゴソゴソ荷物をテーブルに。

青葉もテーブルまで来る。

リュックからアルバムが数冊。

青葉、座ってアルバムを開いて見始める。

青葉「うわ、懐かしいな」

剛も座って。

剛「うん。父さん家で毎日このアルバムの中で笑

う青葉ばかり見てた」

青葉、微笑んで。

青葉「全部父さんが撮ってくれた写真だね」

剛「うん。父さんな、青葉が生まれて今まで、き

っと自分で思う以上にめちゃくちゃ幸せだった

んだよ。この現実を親バカの父さんはなかなか

か受け止められなかった。青葉が一番辛いのに」

青葉「父さん……ごめんね」

剛「青葉が謝ることじゃない！　父さんこそ、青葉

に会いに来るまでこんなに時間がかかってし

まって本当に悪かった」

青葉「僕、親孝行もできないし悲しませてばかりだ」

剛「こんなに良い子が父さんと母さんのところで生まれてきてくれてこれ以上の親孝行なんてないんだよ。父さんと母さんは青葉の親になって世界一の幸せ者だ。この幸せは、どんな悲しさにも寂しさにも負けない。そうだろう？」

青葉「父さん、僕……本当はすごく怖い。死にたくないよ」

剛「うん。そうだよな。まだまだずっと一緒にいよう。どこにも行かせないぞ」

剛、青葉をすごく強く抱きしめる。

青葉「父さん苦しいよ」

青葉、泣きながら笑う。

○同・病室（夕方）

青葉とみどり、剛の3人で、みどりの作ってきたお弁当を囲んで笑って食べている。
唐揚げ、卵焼き、ポテトサラダ、おにぎり、ロールパン。

剛、笑って写真を撮っている。

○公園（夜）

未来、一人で空を見上げている。

流れ星が流れる。

未来「あ……」

○吉井病院・正面玄関（夜）

みどりと剛が帰るところ。

青葉が見送りについて来ている。

みどり、笑顔で振り向いて。

みどり「ああ楽しかった！じゃあ青葉また明日！」

青葉も笑顔で。

青葉「うん、明日」

剛、笑って。

剛「次は屋上でバーベキューだな！」

青葉「勘弁してよ、いい加減怒られちゃうよ」

みどり「父さんはこの病院じゃ不審者だからね」

3人、笑う。

剛、青葉に近づいて。

剛「青葉。先のことを考えて怖がるな。会いたかったら会いに行けばいいんだよ。青葉の今を思いつきり生きろ」

剛、青葉の肩を叩く。

みどりと剛、笑顔で手を振って帰っていく。

青葉、二人の姿を見送る。

○同・病室（夜）

青葉、入ってくる。

イスに剛のリュックが置いたまま。

青葉「あ、忘れ物」

青葉、急いでリュックを持ち上げるとメモが落ちる。

メモには「メリークリスマス。風邪引くなよ」と書かれている。

青葉、リュックを開いてみると、着替え、上着、靴、お小遣いが入っている。

青葉「父さん」

青葉、窓の外を見る。

流れ星が流れる。

青葉「あ……」

○公園（夜）

青葉が走ってくる。

誰もいない公園。

遊具の中に入る青葉。

青葉、一人で遊具の中に座る。

手紙を見つけ、開いてみると。

未来の声「青葉、会いたいよ」

青葉、手紙を握りしめて遊具から出ると、

未来が立っている。

青葉「未来！」

未来「青葉！？　なんで！？　なんでこんな所にい

るの！？」

青葉「手紙が届いてるんじゃないかと思って」

未来「はぁ！？　バカじゃない？　こんなに寒いのに

風邪でも引いたらどうするの！　病院戻ろ……」

未来が話し終わる前に青葉が抱きしめる。

青葉「会いたかった。僕はずっとずっと未来に会
いたかった」

未来の目に涙が浮かぶ。

青葉「こんなことしたら余計に僕がいなくなったとき悲しいかもしれない。いっぱい泣かせてしまいかもしれない。でも会いたかったから会いに来た。ごめん……やっぱり大好きだ」

未来、涙が流れる。

未来「会いたかったよ青葉……ありがとう」

青葉、フラッと倒れかけ膝をつく。

未来「青葉！」

青葉「大丈夫。久しぶりに動いたから疲れただけ」

未来「救急車！」

青葉「大丈夫だって」

青葉、立ち上がって笑ってみせる。

青葉「未来」

未来、青葉を支えて。

未来「何？」

青葉「今から一緒に来てくれない？」

未来「……うん」

○タクシーの中（夜）

青葉と未来、手を繋いで乗っている。

青葉、少し苦しそう。

青葉「お母さんに連絡してね。遅くなって心配さ

せるといけないから」

未来「うるさいなあ。了解」

未来、繋いでいない方の手でスマホを操作。

○吉井病院・最上階テラス（夜）

青葉と未来、歩いてくる。

ガーデニングや柱がクリスマス仕様にラ

イトアップされている。

青葉、未来の手を握り、優しい笑顔で。

青葉「未来、結婚式しよう」

未来、泣きそうな笑顔で。

未来「……うん」

二人、ゆっくり歩き出す。

青葉の足元が頼りなく、未来が支えるよう

に歩く。

一番ライトアップされたステージのよう

なところまで歩くと、向かい合わせになる

青葉と未来。

青葉と未来、無言で抱きしめ合う。

青葉と未来、見つめ合う。

未来、目に涙をためて。

未来「青葉、大好き」

青葉、優しく微笑み、強い眼差しで。

青葉「未来……幸せになれ」

未来、笑顔を見せるが涙が頬を伝う。

二人、静かにキスをする。

○病院・病室（夜）

青葉と未来。

青葉がベッドで酸素吸入器をつけている。

青葉の呼吸が浅い。

未来、青葉の手を握って座っている。

未来「全然時間が足りない……」

青葉「時間はこれから、いっぱいあるよ」

未来「……そうだね」

青葉「未来」

未来「何？」

青葉「笑ってよ」

未来、泣き顔。

青葉「僕は笑ってる未来が大好き」

未来「うん」

未来、笑って見せる。

青葉「でも、辛い時は泣いてもいいよ」

未来「もう、どっちよ」

青葉、息を切らしながら。

青葉「泣いてもいいけど、必ずまた、笑える日

が来ること、忘れないで。大丈夫、笑える日が

来たら、辛かった事も、いい思い出になるから」

未来「青葉……」

青葉「未来、ありがとう。未来に会えて僕は今本

当に幸せなんだ」

未来「私もだよ。青葉……私はこれからもっと幸

せになってもっともっと笑顔になるよ」

青葉「うん」

未来「だから私はもう大丈夫」

青葉「未来……」

未来「みんなにも会いたいでしょ？呼んで来るね」

立ち上がろうとする未来。

青葉「未来」

未来「ん？」

未来、座り直す。

青葉「……」

未来「……」

微笑んで見つめ合う二人。

窓の外は雪が降っている。

○同・病室（夜）

青葉のベッドのそばには未来、響子、高田、

優太。

一歩引いたところにみどりと剛、岡田が真

剣に見守っている。

青葉、息を切らしながら。

青葉「みんな、もっと楽しそうにしてよ。お葬式

じゃないんだから。ねえ先生」

岡田、焦って青葉に近づいて。

岡田「お前それ今言うか？」

青葉、笑って。

青葉「冗談だよ」

岡田「冗談でもそんなこと言うなよお」

岡田、みるみる泣き出す。

響子、岡田を叩き後ろへ追いやる。

みどり、岡田を慰める。

響子「医者らしい所がまるでないわね」

青葉「響子さん。岡田先生は、僕の命の恩人なんだ。いつだって生きるパワーをくれた。落ち込んだ時ほどパワーをくれた」

響子「青葉はなんて優しい子なの大好きよ」

響子、手で青葉の頬を包む。

高田が情けない声で。

高田「僕のこと忘れてしまったのか響子……」

未来も。

未来「そうよ浮気はダメだからね！」

青葉、楽しそうに笑って。

青葉「響子さん、僕たちの好きな人が焼き餅焼いてくれてるよ」

響子「そうね。ありがとう青葉」

響子、静かに笑顔で青葉の肩に手を当て頷

く。

青葉も頷き。

青葉「ありがとう」

優太が駆け寄って。

優太「僕も！僕もありがとうだよ！」

青葉「優太くん、走れるようになったんだ」

優太「そうだよ。だから頑張れって言ってくれたみんなにありがとうなの。青葉くんもサッカーの練習見にくる？」

優太、心配そうに青葉を見る。

青葉「そうだね、見に行くよ」

優太、一生懸命に。

優太「今はエースじゃないけど最高のチームなんだ。だから僕もまた頑張ってエースになるよ」

青葉、微笑んで。

青葉「うん」

優太「応援してね？」

青葉「もちろんだよ」

響子、優太の肩に手を置く。

優太「じゃあまたね、青葉くん」

青葉「じゃあね」

未来、響子、優太、高田、みどり、剛、岡田が青葉のベッドを囲むと、未来がみんなに目配せをして小声で。

未来「せーのっ」

青葉以外「メリークリスマス！」

青葉以外、隠し持っていたクラッカーを鳴らす。

青葉、驚いて笑う。

みんなも笑う。

看護師が慌てて入ってきて。

看護師「ちょっと何してるんですか」

岡田「ああ、いやちょっとな。大丈夫だから」

岡田、看護師を追い出す。

またみんなで笑い合う。

窓の外に雪が降っている。

○同・病室（朝）

誰もいない。

荷物や布団など片付けられ何もない。

窓の外は晴れている。

○同・デイルーム（朝）

みどりと剛、向かい合って岡田。

剛「先生、本当にありがとうございます」

みどり「この病院でお世話になって良かったです」

壁には、響子や優太たちの笑顔の写真がた

くさん飾られている。

剛「早速飾っていただいております」

みどり「先生の写真も素敵だったのにすみません」

岡田「いやいや、俺の写真は酷かったから」

みどり「そうですね」

剛「おい」

みどり「あ、すみません、つい」

岡田、笑い、写真を見ながら。

岡田「本当にどの写真にも愛があって優しくて。

青葉らしい良い写真です」

岡田、みどりたちを見て。

岡田「またいつでも遊びに来てください。僕もこの写真たちとずっとここで笑っているの」

穏やかにデイルームを見渡す3人。

○結婚式場

T・5年後

ウェディングドレス姿で笑顔の未来（22）
がフラワーシャワーを浴びている。隣に
いる結婚相手の顔は見えない。

未来の声「青葉。青葉と出会って、一緒に過ごした時間は短かったかも知れないけど、私にとって青葉との時間は今でも大切な宝物だよ。たくさん笑って、たくさん泣いたよね。

青葉、私と出会ってくれて、私の人生を笑顔でいっぱいにしてくれて本当にありがとう。私…
…幸せになるよ！」

参列者には岡田、みどり、剛、響子、高田、
優太、留美。

青葉の声「未来。僕の人生で未来と過ごした時間は掛け替えのないものでした。こんな僕と出会ってくれて、一緒に笑ってくれて、一緒に泣いてくれてありがとう。僕はいつも大好きな人た

ちに囲まれて本当に幸せだったよ。これからも
続く未来へ。幸せを願っています！」

未来を祝福しているみんなの笑顔。

○ 結 婚 式 場 ・ 外 観

青空の下。

鐘の音。

結 婚 式 場 の 周 り に は 青 葉 が 茂 っ て い る 。

○ 吉 井 病 院 ・ デ イ ル ル ー ム

壁に飾られた写真。

青葉とみんなの笑顔の集合写真。

（ 終 わ り ）